

令和3年度 事業実績

1 森林課の概要（組織・事務）

課長	副課長	林道担当主幹
林務・人材育成担当（5人） ・森林伐採、開発等の監視・指導 ・森林保全ガイドラインの運用 ・施設及び財産（市有林等）の管理 ・森林整備に関するモニタリング調査 ・豊田森林組合の人材確保育成支援 ・森林環境教育の推進（とよた森林学校、出前講座） ・森づくりの普及啓発及び市民活動支援	森づくり・地域材担当（7人（うち会任1）） ・地域森づくり会議（団地化）の支援、間伐の推進 ・森林GIS、ICTの推進 ・高性能林業機械及び架線系新作業システム導入の支援 ・原木集荷安定供給の調整 ・地域材の利用拡大（公共・民間施設） ・ウッドイーラー豊田の支援 ・森林会館指定管理	林道担当（5人） ・路網整備（林道・作業道） ・県代行林道の調整 ・林道維持管理（林道パトロール委託、使用許可） ・中核製材工場の用地管理 全職員 20人 うち会計任用職員 1人 ※令和3年度から林道パトロールを委託化

2 決算額（歳出）説明資料

事業・事務の概要、取組内容、実績、評価等	事業名	令和3年度 決算額（円）	令和2年度 決算額（円）	増減（円）	頁
本市の森づくりの目的「豊かな環境、資源及び文化をはぐくむ森林の保全及び創造並びに次世代への継承」 「森林の保全及び創造」・・・基本理念1「公益的機能が発揮される森づくり」 「次世代への継承」・・・基本理念2「木材の循環利用を進める森づくり」、基本理念3「地域づくりと一体となった森づくり」、基本理念4「人材育成と共働による森づくり」 ※【公益的機能】土砂災害防止／土壌保全、水源涵養、生物多様性、地球環境保全、保健・レクリエーション、快適環境形成、文化 【私益的機能】物質生産					

1 森林の健全化と森林の保全

【概要】

目的：過密人工林を順次解消し、森林の持つ公益的機能の増進を図る
手段：①地域森づくり会議による私有人工林の森づくり団地化の促進
 ②森づくり団地内の40%切置き間伐等の市単独補助、国県の搬出間伐の補助上乗せ
指標：団地化面積：1,200ha/年、間伐面積：1,200ha/年（第3次森づくり基本計画）

【取組内容・実績】

①地域森づくり会議、団地化の実績

	会議数（前年比）	団地数（前年比）	団地化面積	増加面積	達成率
令和3年度	113（+1）	627（+35）	14,335.63ha	1,100.51ha	91.7%
令和2年度	112（+1）	592（+38）	13,235.12ha	1,104.31ha	92.0%

②間伐事業の実績

事業区分	令和3年度	令和2年度	増減	備考
矢作川水源対策事業	57ha	45ha	12ha	
水源環境林対策事業	52ha	32ha	20ha	
間伐促進事業	91ha	230ha	△139ha	R2 材価下落のため国県上乗せ
水道水源間伐事業	98ha	83ha	15ha	
水道水源林確保事業	40ha	30ha	10ha	
市関連事業合計	338ha	421ha	△83ha	右表市費5事業分
県事業	449ha	420ha	29ha	森と緑事業、保安林事業
国県補助事業	156ha	78ha	78ha	搬出間伐対象、市上乗せなし
市内間伐面積	943ha	919ha	24ha	達成率 78.6%

【団地化関係】

15 森づくり推進費	22,010,200	22,086,200	△76,000	P196
(2)森づくり推進組織育成費交付金				
(水道水源保全事業特別会計)				
1 水道水源保全費	—	8,394,485	△8,394,485	P199
(3)水道水源林確保費(手数料)				
2 事業計	22,010,200	30,480,685	△8,470,485	

【間伐関係】

4 矢作川水源林対策費	39,085,278	46,988,829		
(2)矢作川水源林対策費補助金				P193
のうち	24,809,964	15,085,019	9,724,945	
※森林整備に係るもの				
10 水源環境林整備費	17,691,788	14,026,449	3,665,339	P195
13 間伐促進事業費	48,328,573	64,754,648	△16,426,075	P195
(水道水源保全事業特別会計)				
1 水道水源保全費	39,929,821	29,923,616	10,006,205	P199
(1)水道水源林間伐促進費補助金				
(水道水源保全事業特別会計)				
1 水道水源保全費	28,762,800	17,297,556	11,465,244	P199
(3)水道水源林確保費(委託料)				
5 事業計	159,522,946	141,087,288	18,435,658	

【評価・成果】（●課題、■方向性）

○目標値には未達だが、団地化面積は前年と同水準を維持、間伐面積は前年度を上回った。 ●団地化が見込める地域の精査 ■ 第4次森づくり基本計画の中で検討、目標値の見直し
 ○団地化面積が対象とする私有人工林約27,000haの53.1%を達成した。 ●間伐が必要な人工林と健全化の進捗の把握 ■ デジタル技術による、より正確な調査手法の検討
 ●目標未達への対応 ■ 団地化面積、間伐面積の進捗を随時把握する仕組みを導入 ■ 団地化が困難な地域での森林整備手法の検討

事業・事務の概要、取組内容、実績、評価等		事業名	令和3年度 決算額(円)	令和2年度 決算額(円)	増減(円)	頁	
II 森づくりの担い手育成と普及啓発の推進 【概要】 目的: 森林作業員等の森づくり人材の確保育成と市民の森づくりに対する理解の醸成 手段: ①中核的な林業事業体である豊田森林組合の人材確保育成の支援 ②森林環境教育事業の実施 指標: ①森林組合の新規採用職員数(新卒者3人、緑の雇用研修制度3人) ②「森林の健全な保全」を期待する市民の割合(市民意識調査) 現状2.6%(2021年調査) 森林環境教育事業の開催数、受講者数 【取組内容・実績】 ①新卒林業従事者の林業大学校等での就学支援、緑の雇用研修生制度の活用、岐阜県立森林文化アカデミーと連携した森林施業プランナー養成研修の実施(中堅職員対象) ②森林環境教育事業の実施	3 林業労働力対策費 (1)森づくり担い手育成支援費補助金	21,622,413	17,320,100	4,302,313	P193		
	3 林業労働力対策費 (2)新規就業者育成推進事業費補助金	20,174,948	8,710,567	11,464,381	P193		
	15 森づくり推進費 (5)森づくり人材育成研修補助金	1,128,000	600,000	528,000	P196		
	16 とよた森林学校費	13,903,884	14,475,537	△571,653	P196		
	4 事業計	56,829,245	41,106,204	15,723,041			
【評価・成果】(●課題、▣方向性) ○新卒採用3人、新規「緑の雇用」2人 ▣ 新規就業者に加え、中途採用を強化 ●森林組合での育成体制の構築 ▣ 安全教育はじめ指導者の育成のための研修を支援 ●森林に関心のある市民の拡大 ▣ 森林になじみの薄い市民向けプログラムの充実 ●森林環境教育の運営体制の構築 ▣ 市民や活動団体、事業者などと共働推進							
III 森林・林業基盤の整備 【概要】 目的: 木材産業等の経済活動による人工林の適正管理の推進 手段: 中核製材工場を中心とした木材の安定供給体制の拡充 指標: 中核製材工場原木取扱量 40,000 m ³ /年(うち市内産26,000 m ³ /年) 【取組内容・実績】 ①原木安定供給に向けた「需給調整会議」の開催(6回) ②林業用路網の整備	4 矢作川水源林対策費 (2)矢作川水源林対策費補助金 ※作業路整備に係るもの	39,085,278 のうち 14,275,314	46,988,829 のうち 31,903,810	△17,628,496	P193		
	6 林道開設費	51,462,035	79,499,499	△28,037,464	P194		
	7 林道舗装費	78,944,800	120,601,800	△41,657,000	P194		
	8 林道改良費	141,492,660	135,595,900	5,896,760	P194		
	12 間伐材搬出利用促進費 (1)間伐材搬出路網開設費補助金	41,836,065	39,517,020	2,319,045	P195		
	14 高性能林業機械施業促進費	4,805,890	1,455,500	3,350,390	P195		
	20 林道橋りょう維持管理費	15,951,100	11,266,200	4,684,900	P196		
	7 事業計	348,767,864	419,839,729	△71,071,865			
	【評価・成果】(●は課題、▣方向性) ○中核製材工場原木取扱量43,764 m ³ 、達成率109%(前年度比6,981 m ³ 増) うち市内産25,075 m ³ 、達成率96.4%(前年度比1,274 m ³ 減) ○森林組合素材生産量33,125 m ³ (前年度比1,593 m ³ 増) ●製材工場のフル稼働対応(令和4年度45,000 m ³ 、うち森林組合納材協定量28,800 m ³) ▣ 森林組合以外の事業者の参入促進、森林組合の生産体制強化 ●効率的な林業用路網の整備と管理(トータルコスト削減) ▣ 施設監視型管理への転換、廃道や閉鎖型管理の導入、作業道中心の整備への転換						
	IV 地域材の利用拡大 【概要】 目的: 木材産業等の振興による山村地域を支える 手段: ①公共建築物及び民間施設等での地域材利用の促進 ②地域材の流通体制の再構築 指標: 公共及び民間施設での地域材利用実績、(一社)ウッディーラー豊田の取扱い件数 【取組内容・実績】 ①店舗等の民間施設での地域材利用への補助(テナント店舗等木質化モデル創出事業補助金) 6店舗(ショッピングモール1、飲食店3、小売店2) (仮称)豊田市博物館、若園交流館改築での利用調整、市公共事業の地域材使用量281.72 m ³ ②ウッディーラー豊田との共同事業(イベント等出展8件)、ウッディーラー豊田の見積件数99件	21 地域材利用拡大推進費 (1)活動推進費	6,892,676	4,114,056	2,778,620	P197	
		21 地域材利用拡大推進費 (2)テナント店舗等木質化モデル 創出事業補助金	8,141,000	2,306,000	5,835,000	P197	
		2 事業計	15,033,676	6,420,056	8,613,620		
	【評価・成果】(●課題、▣方向性) ○民間施設での利用実績増加(累計8件) ▣ 継続により地域材利用の機運を醸成 ●公共施設での一層の利用促進 ▣ 法改正、県条例を踏まえ利用方針を再周知 ●地域材の流通体制の再構築 ▣ ウッディーラー豊田を中心に整理 特に、地域材に関する相談機能強化、地域材関連事業者の連携による供給体制整備						

プログラム	開催数	受講者数	その他取組
とよた森林学校	8講座	97人	啓発動画の制作、森の総合サイト「Tomori(トモリ)」の開設
出前講座	7団体、のべ15回	のべ533人	

事業区分		令和3年度		令和2年度	
開設	林道	4路線	208m	5路線	270m
	作業道	3路線	2,031m	4路線	3,644m
	搬出路		40,655m		34,907m
改良		7路線	487m	6路線	657m
舗装		4路線	3,135m	6路線	4,240m

事業体	内容
豊田森林組合	購入:フェラーバンチャ1台、リース:プロセッサ1台、レンタル:5機種